

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2017年
5月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

高校野球の公式戦、 「0対91」の試合に学ぶ



少し前の記事になりますが、高校野球の試合で「0対91」という大差の試合が取り上げられていました。

すごい試合やなあ・・・ここまで点差がつくのはちょっと可哀そう・・・。

と感じながらも記事に目を通すと、そこにはまさしく「教育」がありました。そして「可哀そう」と感じた自分を恥じることとなりました。

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	R	H	E
英 心	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
山 西	8	31	41	11	X						91	62	0

選手はダメじゃないです

試合後、ツイッターでこう呟いたのは62被安打、17失策で91点を奪われて敗れた私立英心高校の豊田監督です。

「そりゃ、この結果は悔しいですよ。悔しくて、悔しくてたまらない。何人も泣きました。でも、光栄だとも思いました」

試合後のインタビューでこう語った監督、この大敗に「光栄」という表現を使うのには一体どういう意味があるのでしょうか・・・

2008年に現在の校名になった英心高校は、元々不登校の子供を多く受け入れる学校で、その中には休み時間にキャッチボールをする生徒もいました。そこに野球経験のある豊田監督が、週1回程度のクラブ活動でみんなが楽しめるようにと、2015年5月に野球部を創設しました。

部員は男子5人、マネージャー1人から始まった野球部は少しずつ増え始め、10名に達したので日本高等学校野球連盟（高野連）への登録申請が通り、対外試合を組めるようになりました。

バット1本、ボール10球、ヘルメットは相手から借りるというチーム状況で挑んだ最初の試合は0対26で敗戦。この時の投手は「打たれたくない」と嘆き続けました。

「この日を機に彼に『エースの自覚』が芽生えた気がします。他の部員も高校野球の厳しさを知り、負けん気が出て野球にのめり込んでいきました」

と監督は振り返ります。

それから約1年半後にあたる今回の試合で、0対91の大敗をします。点差だけ見ると創部当初から何も変わっていないように感じますが、そうではありませんでした。

4回の英心の守備、ピッチャー返しの打球が投手のお腹を直撃し、立ち上がれなくなりました。監督が「交代だな」と告げると、投手は「最後まで投げさせて下さい」と食い下がります。監督が折れて続投させると、相手チームの選手も立ち上がり、マウンドに再度立ったエースに向け拍手を送ったのです。

4回の守備を終えベンチに戻ったエースは「投げさせてくれてありがとうございました」と監督に礼を述べました。実は彼は、中学時代まで不登校の生徒でした。

監督はこの試合を振り返り、こう述べます。

「今までは、ストライクが入らず四球が続く試合ばかりでした。すると、相手チームは20~30点も差がつくと、試合を終わらせようとバントして自らアウトになるんです。でも今回の宇治山田商は県屈指の強豪ですが、フルメンバーで最後の最後まで攻撃の手を緩めませんでした。うちのピッチャーもストライクを入れられるようになりました。これは『終わらせてもらっていた試合』と違い、勝負の中ではっきりとついた91点差だったと思っています。初めてチームとして認められたという感覚でした」

こういった理由から『光栄』という表現が使われたのですね。この記事を読んで、対戦相手だった宇治山田商の監督や選手たちにも拍手を送りたい気持ちになりました。

豊田監督は最後に、

「不登校だった子が、ただ学校に来るようになるだけではダメだと思っています。私は野球を通じて心がしっかりと育ってほしい。自分の将来に前向きになり、人間性が形成されていって欲しいです。うちの高校の生徒は体力的にもちょっとひ弱なので、野球で受験勉強のための持久力や忍耐力もつくと考えています」

と、話されたそうです。

試合では全く歯が立たず敗れてしまった英心高校ですが、選手たちはこの点差以上に人間的な大きな成長を遂げることができたのではないのでしょうか。

ちなみに、この大敗の翌日も誰一人練習を休まなかったとの事です。

なあ、田中。「先生の役割」って何やと思う？

この記事を読んでいて、ふと思い出したことがありました。それは私が21歳だった時のことです。

当時大学3年生だった私は、教員免許を取得するため、京都のある公立中学校に教育実習でお世話になっていました。

今はどうなのか分かりませんが、当時の教育実習は前期と後期に分かれており前期は確か6月頃、後期は9月頃に教育実習を受けます。だいたい担当するクラスは中学1・2年が多いのですが、私が担当したのは後期中3クラス！つまり、みんなクラブを引退して受験勉強モードに切り替わった時期だったので、とても焦った記憶があります。

しかしながら、大学時代は1年生の頃からMACで講師をさせて頂いていたので、子どもたちに迷惑をかけないようにと、必死にその経験を生かし日々授業をしていました。

すると授業を見回りに来られていた校長先生に「君にはフレッシュさが足りないよ！もっと失敗していいんだから」とエール？を頂いたこともありました（笑）

その実習中、指導担当の先生以外にも多くの先生方にお世話になったのですが、その中のある先生にかけられた言葉がありました。それが上記の

「なあ、田中。先生の役割って何やと思う？」

という問いでした。その問いをされたのは柔道部顧問のF先生で、柔道界では非常に名の知れた方です。学生時代はずっと体育会系（私はバレーボールですが）で、この先生とは以前から接点があった私は、この先生にとっても可愛がってもらっていました。

私はこの問いに対し、

「しっかりと勉強を教えることですか？」

というようなことを答えたように記憶しています。するとF先生は、

「違うな。先生の役割は、勉強を教えるのと違って、勉強で教えることや。

クラブもそう。僕は柔道を教えているのではなく、柔道で教えているんや」

と、仰いました。この時の言葉には感銘を受けた記憶があります。しかしその言葉は自然に、「すっ」と自分の中に入ってきました。それは、MACの理念と通ずる部分があったからでしょう。

指導者の役割はただ単に勉強やクラブを教えるのではなく、それを通して人間性や生きる力を育ててあげることだと、この言葉で再認識しました。

この教えは今の指導に非常に大きな影響を与えてくれています。

クラブや勉強ってなぜするの？

クラブは何のためにするのか？当然、皆さん試合に勝つことを目標に日々練習しています。勝敗を気にしない勝負はしても意味がありません。

では負けたら意味がないのか？

それは先述の英心高校が教えてくれたように、0対91で負けた試合でも選手たちにとっては大きな意味があるのです。

チームや設備面の環境、個人の能力の問題など、どれだけ努力してもある程度「限界」があるのは否定できないと思います。オリンピック選手と同じ練習をしたからといって、みんな同じタイムを出せるわけではないですよね？

しかしそんな中で自分なりに上達する方法を必死に考えたり、挫折や成功を経験することで人間の幅を広げられるのです。

勉強も一緒だと思います。

例えば中学生が理科で習う「フレミングの法則」や国語で習う「五段活用」・「下一段活用」など、社会に出てからどれだけ必要性があるでしょうか？恐らく、その分野の専門のお仕事でしか必要は無いですよ。

ではなぜ社会で必ず必要では無い事も学ぶのか？それは「教科の勉強をする」という事を通して、社会に出てから困らないように、「インプット→アウトプット」の練習をしているのだと思います。

まだまだ教育業界は成績至上主義で少しでも良い成績、少しでも良い学校、という傾向があります。これは当然悪いことではありませんが、あくまで勉強というのは「人間性を育てるための手段」に過ぎないのだと思います。

本来は勉強もスポーツ同様、失敗して、この方法だとだめだから次はどう勉強しようかと、試行錯誤して自分なりの学習法を見つけ、身につけ、実力にしていくものです。

MACは「自学自習」を目標にしているので、上記のようなプロセスを大切にしています。100人いたら100通りの学習方法が必要です。それを生徒と一緒に考え、アドバイスし、励ましながら、自学自習をし続けてもらい、徐々に自分なりの学習法を見つけてもらうのです。

しかし多くの学習塾では「手段」である勉強を「目的」として、最小限の努力と時間で最大限の効果・結果が得られるようにと指導します。これだと、MAC式よりは早く効果（良い成績）が出るかもしれませんが、一番伸ばしたい部分が伸びにくいのです。

目まぐるしく変わりゆく時代、今までは絶対だと言われていた**認知能力**（知能や知識など数値化できるもの）よりも、**非認知能力**（意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性など）が必要になると言われています。

上記の様な事は、最近専門家が良く口にするようになってきましたが、MACは数十年前から言い続けています。MACではこれからも目の前の勉強も大切にしつつ、10年、20年先を見越した指導をしていきますので、今後ともご理解とご協力をお願い致します。